



現地取材編

保育・幼児教育の質の維持向上に向けて、日本全国の自治体ではどのような取り組みが行われているのでしょうか。魅力的な取り組みを始めている地域を紹介します。



ジャーナリスト 渡辺悟による 現地取材から

「本気の自己評価」のキは 積み重ねた振り返りにあった

福井県福井市

支	保育者等の専門性及び資質の向上を図ります	(5) ②職員間でのノンコンタクトを大切にし共有及び協働性を高める (6) ③施設内外の研修体制の確立と体制づくりに努める (7) ①魅力ある研修、養成校との連携など職員が積極的に参加できる環境づくりをしていく
	認定子ども園、保育所等を利用する保護者への支援の充実を図ります	(8) ①保護者への育児に対する相談やアンケートの実施、保育参加及び個人懇談の充実をはかる (9) ①食育に関する（献立・レシピ紹介）をコドモンにて配信し、家庭と連携した食の推進に努める (10) ①園の開放日等の情報提供を発信し（HP・SNS）、地域の子育て支援事業の充実を図る (11) ①一時預かりの受け入れを充実していき、地域子育てを拡大し支援していく (12) 保育相談や子育ての悩みなどを気軽にできる相談窓口を設けて、安心できるような環境を構築していく
	地域子育て家庭への支援の充実を図ります	(13) ①健診や育児相談会などの保護者参加をクラスや個人で促していく (14) ①必要に応じて児相への通告や個別ケース会議に参加し子育て支援や虐待の対応に努める (15) ①小学校や転園先へ要領を送付し、必要に応じて個別での話し合いをし移行支援の連携を図る (16) ②園が中心となった地域活動拠点としての場づくりをしていく
働	子育て・子育て支援のネットワークの中で認定子ども園、保育所等の役割を發揮します	(17) ①道守高校、児童館などの交流を計画をもとに連携を図っていく
	地域の教育・保育機能を強化します	(18) ①地域の方に園行事を案内したり、園開放の開催などで地域子ども達とふれあいの推進を図る (19) ①めぐみ会と共に、行事(秋まつり等)の活動を園といっしょに取り組んでいく (20) ①子育て支援として、保護者にフリー保育参加を体験してもらう (21) ④地域住民や施設との交流を開催し交流をはかる
み	子育てへの関心を高めます	(22) ①めぐみ会と共に、行事(秋まつり等)の活動を園といっしょに取り組んでいく
	子育て文化につながる活動を広げます	(23) ④地域住民や施設との交流を開催し交流をはかる

めぐみ子ども園の今年度のワークシートです。特に力を入れている項目にマーカーを引いてくれました。前年度の自己評価で△だった課題を受けてのアクションが、(6)と(7)の2項目です

自己評価で保育の質向上へ——福井県福井市が、市内すべての公私立の保育園と認定子ども園を対象とした「アクションプログラム」に2010年度から取り組んでいます。2021年度からは、矢藤誠慈郎・和洋女子大学教授の指導の下、「福井市の教育・保育の質の向上のための自己評価」の研究にも取り組んできました。今回は「園による自己評価」に焦点を当てます。

「以前はただ書いていただけの書類でした」。めぐみ子ども園の園長・中戸華恵さんは、ワークシートの自己評価について率直に話してくれました。「保育に特化したところがなかったので、○ばかり。◎は無く、△も少しだけ」。2年前の自己評価シートはそんな様子だったと言います。

ところが、昨年度からは違います。本気でワークシートに取り組み始めたと言います。中戸さんが見せてくれた昨年度のワークシートには、水色のマーカーが引いてありました。その水色の行には、自己評価欄に△が付いています。

具体的にはこうです。園での取り組みとして、年度当初に「(6) ①教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針の理解に努める」を挙げ、年度末の自己評価が△、そして備考欄には「指針の理解を職員で共有する機会が少なかったので、今後もっと深めていきたい」

と課題を書いています。水色のマーカーは、取材のために、わざわざ色分けしておいてくれたものです。それだけでも取り組みへの自信がうかがえます。

そして、今年度は、その△に対応する取り組みとして、「(6) ③施設内外の研修体制の確立と体制づくりに努める」(7) ①魅力ある研修、養成校との連携など職員が積極的に参加できる環境づくりをしていく——と2項目を並べました。

(※P36写真参照)

では、一体なぜ昨年度から変わったのか。行政から強く指導されたのでしょうか。違います。転機は、園の保育を変えたことでした。「3年くらい前から、一斉保育ではなく、子どもの声を大切にしたい保育に転換したんです。ガラッと変えました」。

ちょうどコロナ禍が始まった頃です。それまでも主体的な遊びの大切さはわかっていましたが、転

換するには壁も低くはありませんでしたから、でも、コロナ禍で様々なことを見直しせざるを得ない状況がプラスに働いたのです。中戸さんは保育者に「保育で何が大変か」と、一人ひとりに十分な時間を取って面談していただきました。そうして保育者の声に耳を傾け、尊重した結果が、保育の大転換でした。

その頃、大豆生田啓友・玉川大学教授との出会いもありました。研修などの協力を得て、例えば、往還型研修や保育者同士が対話できるノンコンタクトタイムの導入です。この対話の時間が、本気の自己評価にもつながっていきます。

保育者たちは毎日の午後に対話の時間を得て、日々の保育の振り返りを欠かしません。振り返りを積み重ねたことで、自分たちの保育をしっかりと把握できたのです。

何歳児の担当かで違いはありますが、ベースは、対話・振り返り

国の動き

アクションプログラムの概要

概要版 福井市の認定こども園、保育所等における 質の向上のためのアクションプログラム vol.3
実施期間 令和2年度～令和6年度

子どもすくすく おどほいさいき みんなで育ちあうまちへ
このアクションプログラムに基づき、園における教育・保育の更なる質の向上や、子どもの健全育成と保護者の親としての成長を支える場の確保を進めます。

<p>カテゴリーⅠ 子どもの育ちを保障します</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針等に基づき、福井の豊かな環境を生かした質の高い乳幼児の教育・保育を提供します。 ◆保育者等の専門性及び資質の向上を図ります。 	<p>(1) 質の高い乳幼児の教育・保育について研究をすすめ、実践につなげます。</p> <p>(2) 自己評価等の研究・活用による教育・保育の質の向上を進めます。</p> <p>(3) 個別のニーズに対応したきめ細やかな教育・保育を提供します。</p> <p>(4) 子どもの健康支援並びに安全の確保をします。</p> <p>(5) 保育者等の人間性と専門性の向上に努め、質の高い乳幼児の教育・保育を展開します。</p> <p>(6) 施設長の責務を明らかにし、専門性の向上に努めます。</p> <p>(7) 研修体系を確立し、研修意欲を高め、職員が積極的に研修に取り組む環境をつくり出します。</p>
<p>カテゴリーⅡ 子育てライフを支援します</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆認定こども園、保育所等を利用する保護者への支援の充実を図ります。 ◆地域の子育て家庭への支援の充実を図ります。 	<p>(8) 子どもを養育することへの不安を解消するための機能を発揮します。</p> <p>(9) 家庭との密接な連携を行い、子育てに共に取り組みます。</p> <p>(10) 子育ての喜びや楽しさを実感できるように、教育・保育の専門性を生かした子育て支援を行います。</p> <p>(11) 地域子育て支援を展開します。</p> <p>(12) 地域の子育て家庭に対する保育相談及び援助の充実を図ります。</p>
<p>カテゴリーⅢ 多様な連携と協働を進めます</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆子育て・子育て支援のネットワークの中で認定こども園、保育所等の役割を發揮します。 ◆地域の教育・保育機能を強化します。 	<p>(13) 健康管理センターや福井市男女共同参画・子ども家庭センター相談室等、福井市の支援事業実施関係機関と連携します。</p> <p>(14) 地域を基盤として、子育て支援ネットワークの充実を図ります。</p> <p>(15) 小学校等との連携を深めます。</p> <p>(16) 認定こども園、保育所等が中心となった地域子育ての協働活動を展開し、子育て支援の総合的な拠点となります。</p> <p>(17) 地域の表情を把握し、子育て家庭を支える資源や連携を充実させます。</p>
<p>カテゴリーⅣ 子育て文化を育みます</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆子育てへの関心を高めます。 ◆子育て文化につながる活動を広げます。 	<p>(18) 子どもと地域の人々との接点づくりに取り組みます。</p> <p>(19) 地域住民に認定こども園、保育所等への理解を深めてもらう取り組みを進めます。</p> <p>(20) 子育て支援活動への参加のきっかけをひろげ、すべての子育て家庭の親子の参加運動を進めます。</p> <p>(21) 若者男女が関わる子育て文化の担い手育成や子育て支援の推進や普及に取り組めます。</p>
<p>カテゴリーⅤ 安心して子どもを産み育てる支援づくりを進めます</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆これからの乳幼児の教育・保育及びその制度について研究を進めます。 ◆社会連帯による子育て支援の仕組みづくりを進めます。 	<p>(22) 認定こども園、保育所等の役割、機能について研究を行います。</p> <p>(23) これからの乳幼児の教育・保育制度について提言を行います。</p> <p>(24) 福井市の児童福祉関係機関との連携を深め、保育・子育て支援の仕組みづくりを進めます。</p>

※このアクションプログラムにおいて、教育・保育に携わるすべての認定こども園、保育所等の職員（施設長・保育教諭・幼稚園教諭・保育士・調理員・栄養士・看護師等）を「発見者等」としています。
※親児については「子ども」としています。



御幸保育園の「みあいっこ」研修後の様子。職員間の対話や振り返りのなかで気付いたことを次の保育につなげます



めぐみこども園の対話の時間です。保育室を離れ、クラスごとに担任たちが楽しく保育を語り、振り返ります

でいます。取材には、保育専門官の細田光恵さん、前年度まで保育参事を務めていた橋本登茂江さんも同席して話を聞かせてくれました。ちなみに、3人も公立保育園の出身、皆さん元園長です。和気あいあいとした様子に取材の会話も弾みました。

「保育参事という役職ができたのは6年前です。保育専門の立場にあって、市役所の課長級です」。福井市が保育に力を入れていることがうかがえます。

また、県が中心となって園内リーダー・幼児教育アドバイザーを養成すべく研修制度を創設しています。現在福井市には、多数の園内リーダー、市町教育アドバイザーがいます。このほか、公私立合同の研修会の開催なども、「こうしたシステムができたことで、教え込むことが教育ではなく、子どもの学びを見取り、学び合う姿勢を育むこと、そこに向けた保育者

に15分、振り返りをもとにドキュメンテーションの作成に15分、毎日です。非常勤職員も入り、特に正規職員の保育者同士の対話を中心に、明日につながる遊びを振り返ります。

「保育を変えて遊びが盛り上がったことで、保育者もワクワクしながら、保育を語るようになりました」。各クラスの振り返りを園全体につなげるのは、園長の役割です。つまり園長も、園の保育を振り返る日々。その積み重ねがあって、年度末の自己評価に本気で取り組めたのです。「改めてワークシートを比べてみて、この2年と、それ以前では全然違いますね。保育が変わっておもしろくなると、保育者ももっと主体的になる。見えてきたことがたくさんありました」。自己評価に本気で取り組む力には保育そのものにありました。

アクションプログラムが5か年計画で進行中

福井市は、海と山に囲まれた自然豊かなまちです。東洋経済が公表する「住みよさランキング」では、全国総合順位で2023年は3位、上位常連です。もちろん子育てにも力を入れています。

保育の質の向上に向けて「認定こども園、保育所等における質の向上のためのアクションプログラム」を作成して、長年取り組んできました。厚労省が2008年にプログラムの策定を自治体に呼びかけ、それを受けて2010年度に保育園対象が始まり、2012年度には認定こども園も加えて現行プログラムの第1期、そして現在、2020年度から第3期が5か年計画で進行中です。4年目にあたります。ワークシートとその自己評価は、アクションプログラムを実行するための手段なのです。事業は、福井市・子育て支援課の保育参事、南京真由美さんを中心に進められ、チームで取り組ん

育成の足がかりができました。これがアクションプログラムの取り組みにも活かされています」。

24項目の具体的なアクションを示して

アクションプログラムのワークシート作成には、市内の公私立すべての保育園と認定こども園、93園が参加しています。（公立が保育園18/こども園8、私立が保育園7/こども園60）

ワークシートには、①子どもの育ちを保障、②子育てライフを支援、③多様な連携と協働、④子育て文化を育む、⑤安心して子どもを産み育てる支援づくりの5つの大カテゴリーがあって、そこに全部で24の具体的なアクション項目が並びます。24項目それぞれに、実践項目や具体的な取り組みが例示されていて、各園はそこから今年度の取り組みとして、自園のアクション24項目をワークシートに書き込むのです。

年度末には、ワークシートの24項目それぞれを、◎○△×の4段階で自己評価します。自己評価で課題として見いだされれば、次年度のワークシートを作成する際の検討材料にします。

福井市は、このワークシートの公開も求めています。方法は園によりですが、年度初めと年度末の評価結果を園内の掲示板やインターネットなどで、保護者に向けて開示・発信しています。「福井市アクションプログラム」で検索してみてください。たくさんさんの園がワークシートを公開しています。

ただし、ワークシート作成や開示は強制ではありません。強制ではありませんが、私立園でも理解が進んでワークシートの提出率は90%を超え、公表率を増やすことが次の課題です。公立はすべての園が作成も公開もしています。

「みあいっこ」発見がたくさん



福井市子育て支援課の保育参事・南京真由美さん（中央）、保育専門官・細田光恵さん（右）、前年度まで保育参事を務めていた橋本登茂江さん（左）



中戸華恵さん
(めぐみこども園園長)



木村由香里さん
(御幸保育園園長)

アクションプログラムのワークシート（部分）

令和 年度 福井市の認定こども園、保育所等における質の向上のためのアクションプログラム (園番号) No. (園名) 園				
カテゴリー	園での取り組み (具体的なアクション内容・それを実現するための具体的な方法・手段)	年度末達成度 (◎・○・△・×)	備考	
I 子どもの育ちを 保障します	幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針等に基づき、福井の豊かな環境を生かした質の高い乳幼児の教育・保育を提供します	(1) (2) (3) (4)	【備考欄】 その年度の取り組みの結果から、園運営や保育についての評価や達成度についての特記事項、引き継ぐために必要な事項等があれば記入する。	
	保育者等の専門性及び資質の向上を図ります	(5) (6) (7)		
	認定こども園、保育所等を利用する保護者への支援の充実を図ります	(8) (9)		
	【具体的な取り組み欄】 プログラムの中の「具体的な取り組み」を参照し、今年度取り組む具体的な内容（自園の特色が現れるような内容）として記載する。			
	下記、「達成度」表記参照			
II 子育てライフを		(10)		

【備考欄】 達成度についての特記事項や次年度に引き継ぎたいなどを記載する。

保育のみあいつこ研修／当日の保育体制（例）

保育のみあいつこ研修		当日の保育体制（例）		令和5年7月26日（水）							
時間	9:30~10:00	10:00~10:30	10:30~11:00	11:00~	11:10~11:40	11:40~	11:50~12:20	12:20~	12:30~12:40	12:40~	12:50~13:40
みあいつこ クラス	参観者			話し合い 参加者	保育	話し合い 参加者	保育	話し合い 参加者	保育	話し合い 参加者	保育
5歳児 山本	田中	園長	玉川		山本		山本	保育所保育 指針を見て 振り返り	山本 田中 玉川 園長		坂井
4歳児 坂井・松	園長	里村	主任		坂井	保育所保育 指針を見て 振り返り	坂井 松 里村 園長 主任	山田			山田
3歳児 山田・斉藤	主任	森	吉田	保育所保育 指針を見て 振り返り	山田 斉藤 森 吉田 主任	松		斉藤			斉藤
他クラスの 保育	0.1歳児 2歳児	里村・吉田 玉川・森	0.1歳児 2歳児	田中・吉田 玉川・主任	0.1歳児 2歳児	田中・里村 森・園長	0.1歳児 2歳児	田中・吉田 玉川・森	0.1歳児 2歳児		松・主任 玉川・森

午後の話し合いのために、担当とは別のクラスで保育に入ることも。例えば、表の5歳児の右端、話し合いの際には4歳児担当の坂井さんが5歳児の保育を担います（名前は仮名）

「短い時間でも集中して観るの
で、発見はたくさんあるんですよ。
話し合いは全員一緒で30分。『初任
者で緊張していた職員も、リラッ
クスした雰囲気でお話し、学び合
いを積み重ねたことで自信が付き、
他園のみあいつこにも積極的に参
加するようになりました。』

「この話し合いの仕方に工夫があ
りました。『保育所保育指針の5
領域と照らしながら振り返ります。
参観者が見つけた気づきを『指針
の○番だね』って。指針を読むだ
けよりも理解が深まります。ただ、
話が盛り上がりすぎて指針に照ら
す時間がなくなりました（笑）。
今は話し合いの前に10分ほど指針
を見るようにしています。』

目標や手段が明確に 改善への意欲も

「みあいつこは年3回、非常勤も
含め全員が参加できるように保育
体制を整えます。園長も保育に入
り、1人30分ずつ交代で参観しま
す。*P40表参照」

また、御幸保育園では、毎週水
曜の終礼後に15分、記録やドキュ
メンテーションをもとに「楽しく
語り合う時間」をもちます。そ
こでも指針に照らし、次のねらい
や環境の見直しにつなげています。
忙しいなかでも、とても意欲的で
す。

「この話し合いの仕方に工夫があ
りました。『保育所保育指針の5
領域と照らしながら振り返ります。
参観者が見つけた気づきを『指針
の○番だね』って。指針を読むだ
けよりも理解が深まります。ただ、
話が盛り上がりすぎて指針に照ら
す時間がなくなりました（笑）。
今は話し合いの前に10分ほど指針
を見るようにしています。』

「みあいつこは、コロナの状況の
変化に伴い、昨年度からは近隣園
からも受け入れるように。御幸保
育園からも他園に行きます。
昨年度は公立26、私立31の計57
園でした。今年度からさらに広範
園で行き来できるようになったこ
とから、コロナ禍前のような公開
保育が実現でき、これまで培って
きた保育の振り返りも活かされて
います。」

子育て支援課でも、「ワークシ
ーは園のリーダー層と具体的に話
せる共通のツールとして、偏らず
にカテゴリーごと、項目ごとに話
せます」と南京さんたちは話して
いました。「言ってみれば、どの
項目も保育ではやっていることば
かり。だからこそなのです」とも。
やっていることだからこそ、さら
なる質の向上を自己評価で意識さ
せる。保育の質向上に終わりはない、
継続していくものだ、という
メッセージですね。

「この話し合いの仕方に工夫があ
りました。『保育所保育指針の5
領域と照らしながら振り返ります。
参観者が見つけた気づきを『指針
の○番だね』って。指針を読むだ
けよりも理解が深まります。ただ、
話が盛り上がりすぎて指針に照ら
す時間がなくなりました（笑）。
今は話し合いの前に10分ほど指針
を見るようにしています。』

アクションプログラムに関連す
る取り組みに、ユニークな名称で
興味を引く「みあいつこ」があり
ます。福井市が推奨してきた公
開保育がコロナ禍でできなくなり、
園内の保育者同士で保育を「見合
う活動」を取り入れたのです。こ
うしたみあいつこやドキュメン
テーションなど保育の振り返りが、
めぐみこども園の例でもご紹介し
たように、充実した自己評価につ
ながっていました。

公立の御幸保育園の園長、木村
由香里さんもそう話します。「保
育の振り返りが、たくさんの方のア
クション項目につながっています」。

木村さんは2020年度から、
みあいつこを始めました。「最初の
頃は保育の公開に不安な様子も見
られましたが、『肯定的な視点で見
取る』ことを大事にしているので、
それを語り合う振り返りも楽しい
時間になりました。午前中にみあ
いつこ、午後に参加者全員で話し